# 京城新聞

## 無題錄　不及生

▲野心渾身に充滿し、慾望腦腔に橫溢せる彼れ朴泳孝は、濟州島の風物身に可なるものありとし、加へて漢城の狀態は昨今政客野に滿ち互に權勢を爭いて其の歸嚮する所を知らずかたく此の際自已の歸京するは恰かも火中に投ずるが如しと案外にも悟りを開き愛暫くは閑雲野鶴を友として悠々閑々日月を送るとかの噂であるが成程考へて見れば或は其の方が彼れに取つては此の場合得策であるかも知らぬ、

▲流刑の期限が滿ちたからとてノコ〳〵と元の舞臺に舞ひ戾り又元々通り持つて生れた隱謀密計を逞ふしたならば、今度こそ一生の破滅到底他日の成効は期し難いといはねばならぬ、併し彼れは其のやうな頓馬ではない、人の噂さも七十五日百日經ては空吹く風と許りにマヅ昨今は閑雲野鶴を友として其の實漢城の形勢の刻一刻に變轉し行くを觀望して居るのであらう、而して機にして熟し時に至つたならば、彼れは忽ちに漢城に乘り込んで來ることは勿論である思ふに暗中飛躍の雄心は彼れが昨今に於ける燃ゆる許りの慾望ではあるまいか、

▲民長官撰問題に就ては反對論は世人も知つての通りナカ〳〵熾んなものである、併し地方に依つては更に熾んでない所もある、現に釜山などは「更に熾んでない」方で……而も表面には至つて強硬な態度を執つて居るやうに見受くるが其の實際は甚麼してツウでない、此間吾が當地のある民團議員に逢ふた時に參考迄に同地の議員の態度を質すと「官選問題には飽迄も反對するが今は其の時機でない」とかいふ答辭が來たとの話しであつたが、之を聞いた吾輩は呆然として何等の言を發する所を知らなかつた、第一此の惡令に對して之を改めさせやうといふのに「時機でない」とは更に其の意味が解せぬではないか、尤も釜山といふ土地は從來何等の問題に對しても先づヅツと斯ういふ寸法であるから夫れを思ふと今更ら怪しくも可笑しくもない譯である

▲ソコへ行くと元山、平壤、群山あたりは大に振つて居る、今度の問題に對しても反對熱はナカ〳〵盛なもので京城に比べても敢て遜色を見ざる程である、尤もついれ隣りの仁川あたりも輿論は一定して居るやうであるが肝心要の居留民會議長が未だ內地より歸仁せざるとかにて確定した決議が出來ないとかの噺であるが、兎も角今回の問題に就ては成るべく民會の步調を一にして一齊に事に當つて欲しいものである、

## ●國有土石採取規則

國有土石の採取に關する許可は今後總て農商工部に於て取扱ふ事となり同規則の制定中なる事は既報の如くなるが愈々統監府の承認を經たれば近々發表せらるゝ筈にして其の內容を開くには本法は國有の森林山野其他の土地に於ける寶石類雲丹燐礦石材粘土等土石の採取許可を受けんとする者は農商工部に出願して其の許可を受くべき事を規定し出願者は(一)採取地の位置及び面積(二)採取せんとする土石の種類(三)土石の見積量及び其の採取料見込額(四)採取の期間(五)採取の方法(六)採取地及び其の附近の狀況を記載せる願書に採取地の圖面を添付し地方長官を經由して差出し許可を受けたるときは農商工部大臣の定むる採取料を納付するを要し採取權は相續讓渡及び抵當の目的となすを得る事となり居れりと云ふ

## ●安東地方の狀況(續)

▲衞生 衞生上に於ては郡民の衞生思想一般に絕無とも云ふべくして公衆及び個人衞生の何物たるを解せざるは恕すべきものあり幸にして本年は未だ此地方に各種の傳染病なしと雖も天然痘流行は殆んど間斷なし該患者は大抵十三四歲以下の幼年者なり愚昧なる地方人民は該病は人生れて此れを病まざる可らざる厄病として父兄は更に子弟の痘瘡に罹るを待つものゝ如し種痘は兒女の身體に害ありと云ひ傳へて此れをなさしめざるの風なりしも本年春期に於て警察は強制的種痘を行ひしに其の結果良好なりき

▲物價 物價は各部各地に於て異なると雖も重なる物品の價格の左の如し

| | | | |
|---|---|---|---|
| 玄米一石 | 九、〇〇〇圓 | 大麥一石 | 五、〇〇〇圓 |
| 小麥同 | 四、〇〇〇 | 粟同 | 三、六〇〇 |
| 大豆同 | 五、七〇〇 | 小豆同 | 九、〇〇〇 |
| 木綿一疋 | 一、二〇〇 | 白紬一疋 | 六、〇〇〇 |
| 麻布同 | 二、五〇〇 | 晒布同 | 二、〇〇〇 |
| 絹糸一斤 | 四、四八〇 | 金巾一反 | 六、〇〇〇 |
| 木炭百斤 | 一、三〇〇 | 薪百斤 | 六〇〇 |
| 葉煙草一斤 | 一八〇 | | |

(完)

## 新刊紹介

●東京經濟雜誌 本號の重要記事は「金融の槪況」「河津博士の保護貿易論を讀む」「桂內閣財政整理の方針如何」等なり(一千四百五十號十二錢東京京橋區彌左衞門町東京經濟雜誌社發行)

●時代宗敎 讀むべきもの鮮なからざれど就中曾山釋元恭の「余の眼に映じたる宗敎界の偉人」の一篇は確かに出色の文字といふべし(四十二號五錢東京麴町區上六番町時代宗敎社發行)

●初等敎育 却々賑やかに出來上れり內容は本誌編輯學校の敎師が敎育問題に就ての所說を網羅せるもの確かに斯界の羅針盤といふべし(二號十二錢東京牛込區矢來町初等敎育會發行)

●銃獵界 本號には差して見るべきものなし唯「橫濱射擊會新設戶塚射擊場」の寫眞版が人目を欣ばすに止るのみ(七號十錢橫濱金丸銃砲店發行)

●日本少年 「世界六大强國海軍の特長」「水馬君の旅行」「大寒の灘」等は確かに少年の讀物として上乘なるものなり(九號十錢東京京橋區南紺屋町實業の日本社發行)

●商業界 依例優勢なりまづ卷頭の寫眞版に讀者の眼を喜ばしめ次に奇拔にして嶄新なる題目に心を樂ましむるものあるは本誌の常に異彩とする所なり(十卷二號十五錢東京神田區同文館發行)

●東洋時報 紙數の少なき割合に材料は馬鹿に豐富なり讀むべき記事としては「滿韓人の國民性に就て」「海外市場の開拓」「八講百年」「印度事情」等なり(百十八號十五錢東京麴町區山下町東洋協會發行)

●實業の日本 本號に於ける出色の新文字としては余が廿五六才當時の希望と今日の實際とは如何に相違するか余が日本靑年の模範人物として何人を推薦するか(東京京橋區南紺屋町實業の日本社發行)

## 小說 新不如歸(七十六)　篠原嶺葉著

奈加子は翌日敏男が參謀本部へ出勤した後で猿渡の宅へ車を急がせて、奧まつた一室で勘兵衞と唯二人密談を始めたのである。

「猿渡さん、私眞個貴方なり島子さんなりへ、今日と云ふ今日は詫に來ました、實は敏男が漸く昨日歸つて來ましたので昨晚早速種々と話しました處が、驚くぢやありませんか、斷然妻は貰はない一生獨身で送る事に決心爲たと云つて、何と勸めても承知致さないのでございます、妻は貰ふけれど島子さんは可厭だとでも申すのなら、親の威光で無理にでも承知させますけれど一生貰はないと云ふのですから、眞個手が着けられないのです、私も氣の合つた島子さんと一緒に暮したら甚麼に樂しい事であらうとそれを一つの樂みに爲て居りましたが何も彼も水の泡になつて了ひました、憖う云ふ事情ですから、どうぞ惡しからず思つて下さい、私あんなに受合つて置きながら今更這麼事を申すのは面目がありませんけれどこればかりは、眞個爲方のない事ですから、これがために氣持を惡しくせんやうに爲て下さいまし、呉々も詫び申します。」

と、奈加子が面目無げに云へば、猿渡は太く失望の色を示して。

「眞個今更那麼ことを有仰られては、本人は勿論私も非常に失望するのです、此事に就きましては御承知の通り、私の手元では足掛さんへばかりでも、三千圓と云ふ大金を出して居ります、其他にも目に見ねぬ金子を隨分と使つて居りますから眞個非常の迷惑ですけれど、しかし妻は貰うが猿渡の島子は御免だと云はれるなら少しは申分もあるのですが、肝心の御本人が誰彼を問はないで、一生妻を持たんと有仰るのなら、これは何と思ふた所で爲方がありません、眞個緣が無いのでございます。」

「本當に私も照合も何も拔けて了ひました、島子さんの緣談もですが、第一は我々が天下晴れて樂まれる便利が出來るを、何より樂みに爲て居たのが、すッかりと的が外れて了ひました、惡い事は左右思ふやうにならないものですね。」

「眞個です、眞個惡い事と云ふものは思ふやうにならないものです、爲方がありません、たゞ互に他目を忍んであゝ云ふ道ならん事を爲てるのですから、些とや少との苦勞するのは罰でせうよ、若しくッても相變らず他人に目付からないやうに、待合で逢ふより外に爲方がありません、娘を嫁に遣つて置て、それに托つけて我々が氣任意な所業を爲やうなんと思ふたのは、考へて見りやあんまり虫が宜すぎたのですはゝゝゝ。」

「然う諦めりや、然うですけれど、眞個待合に入るのは丸木橋を渡るよりも險吞ですからね、ひよッと知つた人にでも見付らうもんなら、もう生きては居られないのですから……。」

兩人が喃々と語りつゝあるを、先刻より次の室の襖越に立聞して居た島子は已が緣談の成就せぬを知つて太く落膽すると共に父と奈加子との關係を覺つて、何を感じたか思はず微笑を浮べて立去つた。

(二)　（第三種郵便物認可）　明治四十一年八月十二日　京城新聞　（水曜日）　第三十三號



京城新聞

# 輿論の價値

（輿論に傾聽すべし）

萬機は公論に決すべし、之れ帝國が立憲政体を採用せし根本の意義なり、輿論は公明なる批評なり、輿論は嚴正なる監督なり、如何なる仁人君子と雖も其局に當りては瑕瑾なき能はず、局外者の觀察は公平なり、之を以て[illegible]なる政治家は局外者の公平なる批評に[illegible]するなり、之に反して暴慢倨傲の爲政者は公明なる批評、嚴正なる監督を斥けて[illegible]んとせず、古來政治の善惡は此兩[illegible]に依りて岐るゝなり、立憲政治は[illegible]の監督に依りて運用せらるゝ政治なり、世界の文明國が競ふて立憲政治を採用せる所以のものは、專擅政治の弊害多きを經驗したるの結果なり、古來輿論を無視したる政治家にして失敗せざるもの稀なり、昔者輿論政治の行はれざる專政時代に於ても社會公衆の公明なる批評を斥けて自己の意[illegible]たるものは概して失敗せり、[illegible]輿論政治の發達したる時に於て輿論を無視して專行せんとするに至ては[illegible]を視るよりも明なり、輿論を[illegible]するの政治は暴戾なり公明なる批評を排斥するの政治は陋惡なり立憲政治の行はるゝ邦國の政治家たるもの誰か輿論に傾聽せずして圓滿に政治を運用することを得べきや、輿論に傾聽して之を實行する之れ即ち立憲政治なり、

古來英雄が獨斷專橫以て大事業を創設したるの跡を見て、[illegible]萬能を謳歌するものあれども、[illegible]は[illegible]の觀察にして其背後には常に局外に超然たる批評者あり、以て國民の心を代表して忠告するなり、昔より明君は能く忠臣の諫言を容れ以て其過を矯めたるなり、何れの世にも局外者の公平なる批評は必要なり、試に輿論を容るゝの人物と獨斷專橫的の人物とを比較せよ、最も人口に膾炙せる奈翁と華盛頓との功業を見れば思ひ半に過るものあらん、

今や韓國在留邦人の輿論を沸騰せしめたる政策上より見れば部分問題なりと雖も、當局者が其輿論を無視して毫も反省する所なきに至ては立憲治下の民として大に其非を責めざるを得ず、余輩は如何に考るも當局者が斯る一部問題の爲に輿論の反抗に頑として省る所なきは何の故たるかを[illegible]するに苦しむなり、若し當局者にして輿論を尊重し、公明なる批評を甘受するの誠意あらば速に撤廢して民心を收むべし、若し夫れ一旦發令したるものを撤回するは官府の威信に關すると云ふが如き僻見により輿論を無視し民心を壓迫せんとするに至りては更に非なり、撤廢は決して威信を傷けず、却て輿論に聽くの宏量雅懷を示し以て民心を悅服せしむべきなり平生何事にも溫順にして官府に逆はざる在留邦人が反抗の聲を擧ぐ、其輿論の沸騰知るべきのみ、當局者にして飽迄輿論を斥けて强行せんとすれば益々官民の衝突を惹起し對韓經營の上に大なる障害を來たすべし、當局者は深く此利害を反省して輿論に傾聽せざる可らざるなり、

## 討伐隊慰問

愛國婦人會が率先して討伐隊を慰問せんとするや大に良し只例に依つて活版摺の慰問狀や無趣味なる繪葉書を贈り形式的に事を濟まさんとならば余輩は諸姉の擧に贊同する能はざるなり、討伐隊の慰問とは彼等に慰藉を與ふる事なり玆に於てか事を實際的に行ふの要あり、講談落語音樂師等を送りて一夕の歡笑を荒涼なる陣中にある兵頭に起さしめよ、諸姉の親切や必ず受らるべきなり、

東京電報

## ▲統監交迭說否認

伊藤統監の交迭說をなすものあるも對韓經營は未だ其の緒に就かず僅かに暴徒が鎭定に近づきたる迄にて治外法權の撤去地方行政の整理、殖產興業の設置等更に急を要するものありて第一流の政治家に非ざれば其任に堪へざるを以て今伊藤公の退任を見るが如き事なしと云ふ

## ▲賣國大尉の勳章剝奪

賣國大尉川喜多大次郎は官位並に勳等功級を剝奪せらる

## ▲出齒龜の處刑

出齒龜の强姦致死事件今日無期徒刑を宣告さる（以上十日發）

雜報

●大臣會議　昨日午前十時より統監邸に於て各大臣列席定例會議を開き十二時散會したり

●參與官會議　昨日午前八時より各參與官列席統監邸に於て定例會議を開けり

## ●東拓設立事務協議

數日前東洋拓植會社設立準備委員中西讓一氏東京より準備委員が起草したる同會社定款草案を携へ來韓し去る土曜日臨時參與官會議を開き該定款並に會社設立順序に付統監府側の意見を求めたるが尙韓國側の意見を求むるため一昨日午後二時より統監府に鈴木度支部主稅局長藤川同書記官中村農商工部農務局長鶴岡同書記官參集し石塚監查部長中山莊田兩書記官列席し中西準備委員出席の上定款草案に就き說明し協議をなしたるが尙昨今兩日引續き午後二時より會議する筈にて終了の上中西準備委員は直ちに歸東すべしと云ふ

## ●民長官撰外人觀

京城在留の外人等は今回の民長官撰問題に關し何等直接の利害關係を有せず從て其見るところ公平なるものあるべしと信じ本社は此等外人の意見を參考として聞かんが爲め記者を派して二三重なる英米人を訪問せしめたり左は某英人の談話梗概筆記にして文責本社にあり

今回日本居留民長を官選とせられたるに就ては日本人間には大分反對の議論もあり續ては該府令撤廢の請願も出されたりとの事なり、甚露骨なる申分ながら我等英人の眼より統監府の遣口を評すれば彼等日本官憲は一も二も無く獨逸の學問を鵜呑にして之を消化することを知らず獨逸が聯邦統治の必要上聯邦人民を壓制し彼等の權利を無視して政治を施す底意を知らず只皮相の獨逸官憲萬能の風を倣ひ人民とし云へば恰かも政府の奴隷の如く思惟し如何なる暴政にも只人民の盲從を豫期する結果從來民撰たりし民長を今回殆んど必要なくして官選と爲したるものにして其遣方實に愚の極と云はざるべからず半島移住の日本人が斯る暴政に默從するや否やは我等英人の興味を以て觀望するところなるが流石は東洋先進國の人民たる日本移住民は統監府の暴政に對し反對の輿論を起し府令撤廢の請願をなし民團議員の總辭職となるに至れり思ふに今回の問題たる外形小事の如くにして實は決して小事にあらず、何となれば是日本官憲が今後日本帝國領土を離れ亞細亞大陸へ移住する帝國民を如何にして司配するやを決するの大問題に關係するところ尠らざればなり、我等英人には英人の特性あり佛人亦而かり日本人も傳說や迷信や情實を以て司配せらるゝは島國內に住するの間に止まり一旦島國を離れて大陸の新世界に飛躍するに至ては眞に本來より有する德川幕府以前に於て發揮せる雄大なる國民の特性を發揮すべく其旺盛の狀や豫測すべからざるものあらん、而かるに日本官憲は恐の卵を孵化して子鷄の形となりたる牝雞の如く徒らに老婆的干涉を試みて水中に游泳せしめざらんとす我等第三者より見れば其愚實に憫笑に堪ざるなり、今回の問題に付統監府勝つか移住民勝つかは我等英人が將來日本人の大陸に於ける運命をトするの材料として大に見んとするところなり云々

## ●平壤民團の態度

民長官撰問題に對する平壤民團議員の態度なりとして一昨十日發行の平壤實業新聞の報ずる所に依れば

一、民會議員主として之に當るも民團有志の重なるもの又之に參加す

一、官撰府令撤廢の要請を爲すか抗議的のものと爲すか近く決定すべく而して適は要請にせよ抗議的にせよ最も穩健に理義を盡して起草すべき事

一、起草の上は之を當民團の重なる有志に廻附し其の同意を求むる事

一、議員及び有志連署し民團の全意思として之を當局に提出する事

## ●母國新聞紙の反對

民長官撰問題に對し母國新聞紙の反對論左の如し

萬朝報の所論

曾禰副統監が民長官選令廢止の請願を却下したるが爲め各民團は民長官選に對し益す激烈なる反對を表示するに至れり我邦の同國に於ける行動は愼重を要するの時に方り、統監府の無益なる干涉に由りて此の如く居留民團の反對を招くは愚劣極まる手段と謂ふべし

總て海外に在留する同胞の意氣旺盛なるは內地に蟄動する人士の想像外にして、此意氣あるが爲に對外的發展を爲し得るなり故に濫りに彼等の行動を束縛して此意氣を挫折せしむるは不當なる政策たると言を俟たず、我國民の海外發展を望む者は居留民團と共に飽迄民長官選に反對せざるべからず

大阪日報の所論

京城居留民長を官選せむとするは必らずしも不可なるにあらず然れども多數の居留民の反對あるに拘らず强ゐて之れを遂行せむとするの理由は毫も認むる能はず況んや暴威を揮つて尙且つ斷せむとするに至つては民心を失ふこと更に大なることを知らざるべからず尙ほ朝鮮日々新聞民長官選に反對の論議を揭げたるの故を以て忽ち發行停止を命せらる野暮の骨頂なり抑も民論を高壓的に蹂躙せむとするは施政者の誤なり吾人は當局者の狹量を憫れまずんばあらざる也

## ●韓太子旅程變更

一昨日關西地方へ向け出發されたる韓太子伊藤統監一行の旅程は十一日滿州丸にて神戶出帆十二日の夜宮島灣に假泊の豫定なりしも同夜は吳鎭守府に一泊十三日吳出發　宮島着　同所へ一泊のことに變更されたり

## ●旅行中の韓太子

韓太子は東京出發後御同車ありし閑院宮殿下の御訪問を受けられ沿道各地の送迎盛なり太子は元氣にて常に車窓より山河の形勝を見統監に種々の質問をなし十日午後四時名古屋に着し太子は同ホテルに統監は河文に入れり

## ●松井警務局長の訓示演說（續）

第二警察改善の方法　次に警察を改善するの方法に就て說明を試みんと欲す蓋し改善するの方法は他に非ず即ち警察官其人を得るにあり善を進め惡を斥けて改善も始めて緒に就くべし其他中央地方意志に疏通を缺く如きも最も憂ふべき事なり唯從來は巡視もなく相互の疏通を計るの機關なく誠に已むを得ざりしも今後は努めて其道を講ずべきを以て同時に諸君に於ても善く各道の警察部と各警察署との連絡を計り署より部へ部より本省に常に其の意志の通せんことを望む地方巡視に關しては巡視官は固より其他のものも可成多く派遣すべく歸任の上は報告會を開きて必ず其狀況を述べしめ以て互に地方の狀況を研究し居れば諸君に於ても能く此意を諒して地方は地方として適當の方法を講じ是等の研究に努められたし又警務月報の如きも愈々近日發刊の筈なれば中央と地方との意思疏通の一機關として利用せらるゝに至るべし猶改善に關し一の注意すべき事あり警察官は內地にても兎角狹量に失するの弊あり然れども社會を離れて警察なく社會や民衆の爲めの警察なれば常に社會を本位とし其活潑々地の日々の狀勢に注意すべし

巡查に對する敎養は警察改良上最重要なるものあり如今暴徒事務も多端なるべく其鎭定も洵に急を要するに相違なきも而も之が爲め決して敎養を等閑に附すべからず敎養と云ふも徒らに憲法行政法等法規の講義を爲すの謂に非らず言語操練其他斯國の事情を研究し日韓の關係を了解會得せしむること最も必要とする所なり猶巡查敎養に就ては中央は固より地方にも漸次敎習所の設置を完備する考へなり又韓國に在る警察官に對し最も戒飭を要するものは第一規律の養成第二廉恥心の砥礪第三民衆に親切なることなり此三點に關しては諸君に於ても常に善く注意して部下を督勵せられむことを要す（未完）

## ●茶話會は元老懷柔策

韓國各大臣及び元老間に於て專ら行はれつゝある茶話會は現內閣が各元老を懷柔するの策より成立したるものなりと云へり

## ●溜池の整理

韓國は古來農業を以て主とし就中稻作は最も重きを置かれ往昔農政の整へる時代に於ては全國各地に灌漑用水の溜池築造され此れに依りて旱天の凶作を免れ居りしに近代に至り農政當局者の不注意の結果此等の溜池は漸次荒廢に歸し時の權勢家當局者と結托して土砂の堆積せる溜池の一部を開墾し所謂堤上田を作り山林の濫伐に伴ふ水源の涸渇と相俟つて益々灌漑水の缺乏を來し僅かの旱天にも凶作を見るの現狀に至れり農商工部は此れを救濟するの急務は全國各地の溜池を復舊するにありとし先づ宮內府所管なる水原城外の西湖を模範的溜池となす方針にて曩に同府に交涉の結果同湖の所管を同部に移屬せしめ今回愈其の浚渫をなすの計畫を立つるため去日曜日趙農相は中村農務局長鶴岡書記官と共に水原に出張し同地の摸範場技師をして同湖の區域其他の調查をなさしめたる由なるが同湖は世宗皇帝が灌漑の利を開くため築造したりと傳へられ面積約四十町步（內多少の所謂堤上內あり）にして灌漑水田は約百五十町步に亘り居るも他地方の溜池と等しく池底著しく土砂堆積し殊に放水路の如きは過日の豪雨にて一部破壞され水居るを以て取敢へず此れが修理を加へ漸次に全池の浚渫を行ふ方針にて設計を立てしめつゝありと云ふ

## ●海潮新聞發賣禁止

海潮新聞は收支相償はずして多大の損耗を來し遂に廢刊に決したる事は既報の如くなるが同紙は終刊の紙上に例の毒筆を振ひ韓國の秩序を紊し治安を害するの言辭を弄したるを以て內部大臣は昨日同紙の發賣を禁止し且つ韓國內に送付し來りし同新紙一切を押收せり

## ●憲兵狙擊せらる

本月五日公州西方維鳩分遣所の憲兵二名補助員三名は公州郡內に於て約二十名の賊と衝突し之を擊退し其二を殪し若干を傷けたり之れが報告の爲め同夜鷄山に派遣せし憲兵上等兵一名は賊の狙擊を受け傷死したり

●被害官吏弔慰　暴徒のため殺害せられたる高敞財務署長徐相逵氏及び負傷したる茂朱財務署長張祐文氏に對し度支部本廳及び直管各官廳官吏より義捐弔慰をなす事は既報せし處なるが該金既に集りたるを以て徐相逵氏遺族へ三百圓を張祐文氏へ百十三圓六十二錢五厘を分贈したり

●三學會總會　湖南學會は九日午後二時半同會事務所に於て總會を開き大韓每日申報の湖南人の猾輕と題し揭げたる記事に付討論する所あり同志學友親睦會は同日午前十一時三十分總會を開き鄭雲復安國善の演說あり畿湖學會は同日午後二時三十分より同會に通常總會を開き會長辭職に付尹雄烈を會長に推し其他評議員等の補欠をなせり

## ●仁川斗量場使用規則

仁川海岸斗量場規則の改正されたることは既報せし所なるが左に其改正規則の全文を揭ぐ

第一條　本民團營造物海岸斗量場を使用するものは本規則に依り使用料を納付すべし

第二條　使用料は別に定むる所により使用終了の都度之を徵收す

第三條　使用せんとする者は其都度書面又は口頭を以て貨物の數量堆積を民團役所又は民團役所出張所に屆出て一切の指揮を受くべし

第四條　使用者は使用を終りたる都度民團役所出張員の檢查を受くべし

第五條　斗量場內には牛馬及車輛を乘入ることを得ず

第六條　貨物の性質又は使用の方法により公衆に害ありと認むるときは其使用を禁止し又は許可せざることあるべし

第七條　使用料を怠納したるものは滯納處分結了に至るまで使用を停止す

第八條　使用料の逋脫を圖りたる時は二十五圓以下の過料に處し尙逋脫使用料を追徵すべし

附　則

第九條　第五條に違背し吏員の制止を肯ぜざるものは十圓以下の過料に處す

本則は明治四十一年九月一日より之れを施行す

尙は使用料は從前の通りにして廻し荷造陸揚及船舶積込にして當日以後に涉るものは凡て積置に準し相當料金を徵す

●南浦運輸部引揚　鎭南浦運輸部出張所引揚の事は既報の如くなるが愈々去六日付を以て廢止され一昨十日全部引揚部員は仁川に來れり

## ●榊原少將の出發

一昨日下仁したる京城本部長榊原少將は朝日屋旅館に投宿したるが同日信夫理事官の午餐會に臨みたり因に同氏は本日船便にて大連に出發の筈

●藤山講師出發　早稻田大學第二期擴張に對する用務を帶びて來京中なりし同大學講師藤山治一氏は當地に於ける用務も既に結了したるを以て昨日午前八時三十分南大門發にて歸朝の途に就きたり

●生田書記官の歸東　生田農商工部書記官は日本政府と打合せを要する事件あり一昨朝八時三十分南大門發列車にて東京に向け出發せり

●警察部長の歸任　會議のため來京中なりし岡田咸南警察部長は再昨夜飯田京畿、今村忠北、吉永忠南、壹岐慶南、島田平北、向田平南、隨慶北は何れも昨朝出發歸任し關屋咸北は今夜宮川全北、阪東江原は本朝出發歸任する筈なり

公人私人

▲岩本光五郎（平壤農場技師）　一昨日水原へ向へり

▲矢鍋永三郎（大邱財務監督官）　一昨日歸任

▲水野廣德（海軍大尉）　一昨日入京天眞樓

▲五島盛光（法科大學生）　同上

▲平野房太郎（多木製肥所技師）　同上

▲多木条次郎（代議士）　同上

## ●正誤

本日發行貴紙第三十二號第二面第四欄に「議員と理事官」と題して揭げたる記事の末段に余は織田議長に對し「統監府令第二十三號は漢城市制施行の準備とも云ふべきもの也云々」と陳述したる樣記載相成候得共右は「他日治外法權撤去の曉に至れば居留民の敎育事業は別として民團其のもの自ら存在の理由を失ふべく理事廳も漢城府も恐らくは合して一となるべきものならん人或は民長官選を以て民團自治の退步なりと評するものあれども官民の合同して韓國改善に當るの大方針より見る時は民長官選は寧ろ一進步と云ふを憚らず」と述べたる次第に付明日貴紙相當欄に此の全文を揭げ正誤相成度候也

明治四十一年八月十一日　三浦彌五郎

京城新聞社御中

## ●近事片々

▲降雨●　止み天霽れ炎帝威を逞うす言はじとするもオー暑びと自ら口に出る情も凡夫

▲併し●　此頃は朝夕目切り涼しく吹く風も何となく秋風の如く肌心地頗に爽快を覺ゆ

▲加之●　軒場にすだく虫の音さへに秋めきていとゞ哀れをますがやみとても唸りたし

▲光陰●　矢よりも急也暑しくと云ふ中にいつしか障子の破れに窓を動かす時來らん

▲郊外●　を散步すれば桔梗苅萱女郎花等が誇り顏に咲き出でんとするぞ實にもゆかし

▲漢城●　は今や眞瓜西瓜の全盛となりぬ椽側に月を眺めつゝ蠕蛾大の西瓜を割る亦快

▲于蘭●　盆祭も昨日にて畢れり兩三日善男善女の本願寺詣では夥かりき南無阿彌陀佛

▲僧侶●　がいくら殊勝なる聲にて白骨の御文章を讀上るときは何人も無情を感ずる也

▲日頃●　は甚だ無信心なるも朝に紅顏あり夕べに白骨の戒を聞きては忽ち佛心起る

▲佛心●　起れば撞き出す鐘の音も諸行無常寂滅爲樂と響く心地せらる穴尊し佛の功德

▲韓國●　駐在の我領事中で通譯生出身のものはチャン化して箸にも棒にもかゝらずと

▲之れ●　或は事實ならん韓國に在る通譯生上りはヨボ化して大和魂を失へる者なき乎

▲朴泳●　孝の濟州島より歸らざるは漢城政界は野心家の集合なれば危險なりとのこと

▲果し●　て政爭渦中に投ずるを忌む丈けに發心せしか事實ならば先づ賀すべき事なり

▲山縣●　公曰く樞密院議長は伊藤が當然引受るならん余は今や病軀の靜養を專らとす

▲殊に●　元帥府の首班に列し軍機を掌るの身到底樞密院議長の重任に當り難しと云ふ

▲京都●　大學專任總長の候補は四方に飛廻り今や新渡戶博士適任として呼聲高くなる

▲博士●　は現內閣との關係もよし殊に大立物後藤遞相とは極て關係厚し杯と言囃せり

▲內閣●　との關係杯は措て人格に於て學識に於て博士ならば眞に適當なる總長ならん

▲紐育●　のエクヰテーブル保險會社は今度六十二階の高層なる家屋を建築するに定る

▲嚮に●　禁酒會が二十三階の家屋を建築せり迚言囃せしが是は其三倍の高樓驚くべし

▲日韓●　烟草專賣同盟をなさんとて統監府は夫々調查中なりとは果して之れ眞なりや

▲官營●　專賣風は玄海を越へて頻に吹き來る其結果は如何なるべき甚だ以て氣遣はし

(明治四十一年七月 第三種郵便物認可)　明治四十一年八月十二日　京城新聞　(水曜日)　第三十三號　(三)

## 愛（六）

青嵐生投

繁の顏をしげ〳〵と瞻めるのである。

今にして想ひ出さるゝは、花月樓に招ばれた時の二宮の言葉である「君は如何しても僕の意見に從つて呉れんの、北村を斷念ることは出來んか、君さへウンと一つ納得してくれゝば、北村の立身は、此の僕の一手で引受けてやるが、夫でも厭かね」若し彼の時妾が承知したならば斯麼ことにならなかつたのだわ、でも金や名譽に愛を捨てると云ふことは、どうしても妾……

「皆な妾が惡いんだわ、勘辨して頂戴な、ね、北村樣」

「何にも貴女が惡いのじやないのです、僕は素より彼の人の許に働くのを餘り潔しとせんのです、退社するに就ても大に覺悟があるのですから、決して心配するに及ばんのです」

「夫でも妾、何だか心配だわ」

「兎に角く僕は、東京へ歸ります、そして近い中に貴女をよびましよう」

莊嚴なる敎會堂の鐘は、夕靄を破つて響く頃二人は、月を追つて南山に上つた。

• • • • •

相見ては別れ、別れては相見ゆ、會者定離生者必滅の道理は、昔日も今日も變りはない、別けて斷腸の想ひするは、實に生別である。

一夜、南山の月に、繁との離別を惜んで泣き明した美江樣は、一日二日と日の經過に伴れて、繁を戀ひ慕ふの情思が彌增して、何れ座敷が掛つてもフッツリと斷り、絕えず一室にのみ泣き崩れて居たが、今日は強つての女將の懇情も拒み難く、心ならずも身仕度ソコ〳〵腕車に乘つて、軈て花月樓に着いた、京城某新聞社新主筆の歡迎を兼て、舊主筆の送別會は花月樓に開催された、數奇を盡した大廣間は、漢城の諸名士奇羅星と駢んで、一方には美妓美郞の新粧は、又一段と光彩を添へた、既に新舊兩主筆の簡單な、一應の挨拶も濟んで、今電燈眩ゆき所、酒酣である、論ずる者、歌ふ者、果ては管を卷くもの、千種萬態の此光景、實にや忙中閑日月とは斯かることを指すのであらう。

## ●（鐵道）官舍內の自殺

父母の無情を果敢みて

龍山鐵道管理局第三十九號五戶官舍居住濟平道內緣の妻松浦ヒサ(二十三)は一昨十日午後三時自宅に於てモルヒチを服し自殺を遂げたり今同家の內情を聞くにヒサは內緣の妻なれど家庭は至極圓滿にして夫婦さの外には平造の兩親あるのみなるも生計は餘り豐かならざるより家計上の風波は絕へ間なかりしと然ればヒサが此風波の絕へ間なき爲めに自己が身を果敢みて自殺を企てたるものなるかは信ずべからざるも嫁と姑との仲惡きは世間有り勝ちのことなると平造の父母は平素ヒサに對して嫁女〳〵と可愛がりヒサもこの關係は今日迄何等間隙せしこともなかりしかばヒサも舅姑を大切にしてとして孝養を盡さゞることなかりしがヒサは此日父母に向ひ妾も何日まで內緣の妻としては世間の手前もあることなれば早く籍に入らねば安心ならぬからと入籍を迫りしに平造の父母は無情なく之を拒みたりと之れヒサが其無情なるを恨みて一途に死を謀りたるものならん又たヒサの死を謀りたる室は隣接間四疊の室にて白の裕衣を着し赤毛布にて顏を覆ひ仰向きに臥し全身硬くなりて顏面茶黃色と變じ手足及び胸部は所々紫色を呈し居たりと死體は檢視の上平造に引渡されたり而してモルヒチは兼てよりヒサ自身が所持し居たりとのことなれば之を用ひたるものなるべしと

## ●十六年間に三十人の母

米國ニージャモイトロイヒルのアブラハムゴットフスキーといふ婦人は今より十六年前に現在の夫と結婚し雙兒三兒のみを分娩し先月十六日には四人の完全なる男の兒を用み都合三十人の子女の母親となつたとは珍らしき話である然るに此三十名は皆立派に成育しては居らぬ何處か子供の體質の上或は育兒の上に不都合の處あつたものと見ね數多の赤子は出產後一月乃至一年の中に死亡し現に成長して居るのは十四名に過ぎないゴトフスキイ夫人は當年三十二年の女盛りであるから若し此割合で子女を分娩するものとすれば婦人の不妊期迄には六十名の子を產出するやも知れない何にしても子澤山の芽出度い話

## ●無賴漢取締

大阪市東區農人町一丁目二十六番地平民現住所若草町一丁目番戶不詳無職大久保虎吉(三十)神奈川縣橫濱市壽町一丁目五番地平民無職現住所若草町二丁目十番地曾根田梅吉方同居和歌山縣和歌山市六十七番戶秋本兼吉(四十)及び本町七丁目百三木町仲ノ十番地平民無職池田清次郎の三名は十一日保安規則第一條に依り廿日以內に生業を求むべき旨命令を受く

## ●盜賊捕はる

全羅南道興陽郡村金正五(三十)は去る六月卅日仁川東亞烟草株式會社倉庫藏中の卷烟草三十箱入り三櫃を竊取したる惡漢なるが運つきたるにや九日南大門市場に於て二名の韓人を手先きに他人の韓人に賣渡さんとなし居る處を明治森久商店々員が不圖認めたるより之れは實に不審極まることさである若しや東亞會社の贓品にはあるまいかと嫌疑を起し何は兎も角と仁川なる同會社に急報なし金正五を南大門派出所に訴出て取調たる處それと判明し正五は直に本署に引かる

## ●朝鮮で藝妓は厭

愛濶陽溫泉は溫陽館の見晴しよき一室にツイ一週間計り以前より盛りの若さを消す爲めか何うかは知らぬ若夫婦投宿しけるが宿帳には原籍仙臺市櫻井町永島誠之介同妻ひで(十九)と記るし現住所は知るに由なきもマツ見受くるところ男の方は大家の若旦那かソレとも或る銀行の支配人といふ風體なれど女の方はどうやら斯う髮の結ひやうから身體のコナシは誰が眼にも素人とは見ねず譬ばば廉かん婀娜姿の何れは去る所のソレ者に相違なかるべきもサテ此の男女は一昨夜天安發の終列車にて仁川に着し停車場前のある旅館に宿泊したるがダン〳〵此の二人の樣子を探つて見ると男は國に於て放蕩三昧の結果家を勘當され又女は男の馴染藝妓にて此れ近大分男の爲めにも氣苦勞を重ねたりしとかなるが何はサテ男は一旦家を勘當されたることゝて國許にも居堪らずなり愛に兩人手に手を取つて韓國に渡りたるものゝ此れといつて別に職業も見當らねば已むなく一時女を何れかへ藝妓として賣り込まんとの魂膽なる由なるがソレにしても肝心かなめの女が男のいふことを聞かず甚麼で泥水商賣をするのなら內地でやりたく朝鮮では頸が切れてもイヤですとの言葉に今は男も旅費はなしホト〳〵弱り居るとか

## ●奧樣の新町素見

世の進步するにつれ婦人が國家の參政權を得んとして暴行を企て有髯男子を凹ましたる國さへあれば淫風吹き荒さむ漢城の地にある婦人が遊廓を素見したとて驚くには足らぬが左りとは又はしたなき御擧動にはあらずや或夜の九時頃旭町邊へ居住する某判任官の奧方二人連れ各其子供を伴ひ散步の序で豫て良人の買馴染の女郎がドンな顏か見てやろうではありませんかと新町第一樓本店の前へ立ち止まり何事か頻りに囁き居たるが遂に意を決したる如くつか〳〵と第一樓へ這入り込み數多並居る女郞を見廻し居たるがその中で下より三番目に大きな腰を据へ商品然と陳列されて生耻を曝らし居る娼妓を指しあれですよあれが鷄漬りつくりですまあおなた顏をよく御覽なさい人もあろうにあんな人三獸七を見たような女をと良人を恨み娼妓を罵り居たり是を見て取りたる仲居は店張早々未だ一人の嫖客さへないのにこんな女に荒されては緣起でもないと急を妓夫の政どんへ報じたれば正直の政は血相變へて出で來るを見たる奧方連は先んずれば人を制すと匆々と逃げ出し止せばよいのに又もや皆春樓を覗き居るが此の有樣を見たる同樓の仲居や娼妓等は總立ちとなり怒り出したれば此の先き永居しては如何なる事を惹起さんも計り知れざる形勢に流石の奧方連も今更ながら驚きかき消す如くに逃げ去られたりとは何處迄も罪な奧方ではあるワイ

## ●三味線方の雲隱れ

目下旭町一丁目歌舞伎座に乘り込み興行中なる伊東文夫一座の三味線方を勤むる坂井ご云ふものは二三日前友人なる本町座の阪本方に遊びに行きと言つて出でたる儘其翌日になりても又其翌日になつても歸座せざるより伊東一座にては三味線に事を缺くこと少からざるのみならず前借金もあることゝて興行上少からず差支ふるに依り警察署に說諭方を願出でたるより警察署に於て直ちに坂本を召喚して坂本に歸座せしむべき樣忠告を與へられたりと

## ●免無許の營業

山口縣大島郡庄村現時古原町二丁目河合清一(二十五)は餘り無法慾の加減でか何にも一厘入らずに經濟で行るべしとよからぬ魂膽を持ち居りしが十日自宅にて無免許自由開店の遊戲營業のかどにより五十錢のお灸を据らる

## ●ボヤ

昨朝午前四時四十分日出町三十二地戶大阪朝日新聞特派員大村友之丞氏方物置より出火したるを巡廻巡查之を發見し近所總出となり消防に盡力したれば同五時大事に至らず消止めたり原因は目下取調中なりと

## ●仁川管內の出生死亡

七月中仁川理事廳管內に住する日本人の出生者は總數三十五名にして內私生兒十三名なりと

## ●痘瘡發生一名死す

京城南大門外吉野町一丁目古谷淺雄(三つ)は二日發病八日の診斷にて痘瘡重患と明りたるが九日死亡す依て同剋附近の健康診斷を勵行したる處金福只(六つ)及金今只(九つ)の同病重患者を發見し直ちに避病舍に送らる

## ●赤痢とチブス

若草町一丁目十四番戶大友信三(五つ)は十日赤痢に罹り青坡病院に大和町一丁目百八十三番戶船田政吉(三十)は同日腸窒扶斯にて大韓醫院にて何れも治療中

## ●演藝だより

歌舞伎座に於ける伊東文夫一座本町座に於ける白川一座は兩々相對して優劣を競ひつゝあるが如き形勢あるを以て觀客の滿足は一方でないが就中伊東一座は道具衣裳に至るまで總てに於て夏芝居なれば一層の好評を博し居れるは同座の爲め大に祝すべきことなり

▲歌舞伎座　同座本晚の替狂言は一番目悲劇「菖蒲刀」六場、二番目喜劇「牛の草紙」三場にして其場割及び重なる登場俳優は左の如し

一番目　一、庭田家表庭二、庭田直文食居三、庭田家玄關四、庭田家の門長屋五、後子の室六、同奧庭二番目　一、百姓杢作の宅二、同家座敷

子爵庭田直文、百姓杢作(大山)文彥許嫁後子(桂)庭田家召使後にれ勝、杢作妻れその(吉野)馬丁藤吉、宣敎師(山路)異母弟文彥、坊主(小泉)醫學士小川川進、山伏(酒本)後室部子、溪れ虎(北秋)召使れ元、娘れ高(美咲信子)家扶三夫太(杉浦)れ勝の兒山本武男、新聞記者菊地幽芳(伊東)

▲本町座　同座に於て興行中なる白川一座は客員として田宮貞夫を招きたる外堀江幸一、井秀夫、大江吉之助、木村時郎、有吉三郎、

## (平)(民)(文)(庫)

▲熊本一貧生に告ぐ事業〳〵と申し候が月給取りと事業とは自ら異なり居り候又官吏の經驗あらば其の方面に運動なさるしがよろしかるべく候(小僧)▲元京城郵便局の交換手であつた山幹さん近頃はお金が儲かると見ねて大分振つて居りますね(同情生)▲伊東文た一座の觀覽料の制度は洵に贊成だ彼れならば何んだ彼んだと餘計に金を取られる心配はない(好劇家)▲釜山の民團議員共は腰が弱いといふ評判だが果してウとすれば實に浩嘆の至りだ(統監府小使)▲南大門の橫通りは先き頃から道路普請で通行止めになつて居るが早く竣工しないと商賣人は迷惑だらう(氷水屋)▲第一樓本店の二葉は此間店先きで大口開いて何かしら立喰して居つたがマー何んと色氣のないことだらう(仲居)▲永樂町通りの渠は實に汚ない何んとか淸潔にしては甚麼かチ(民團役所掃除係)▲〇〇〇さん一昨夜は皆春樓の千鳥とお樂みでしたネダガ千鳥には馬賊見たやうな支那人の旦那があるさうな(滿州人)▲朝鮮の盆は何日ですか(何度生)▲舊曆七月七日ですがもう濟みましたよ(物知生)▲伊東劇と白川劇との比較劇評を試みて見たいが貴紙に掲載して呉れますか(自稱劇通家)▲兎も角書いたものをお寄越しなさい(係り)▲僕は新聞記者にならうと思ふが甚麼な學校へ這入つたら良いのでせうか(希望生)▲學校はいろ〳〵ありまして大學校から洋行でもしたならばソレに越したことはありませんがマツ手ツ取り早い處で早稻田大學の政治科でせうソレモ英語政治科でなければ詰りませんヨ(係り)▲京城に如何はしい病院がチヨイ〳〵ある其の筋の取締を望む(衛生家)▲滑稽のある商店の招牌に諸雜貨と醒々しく書いてあるが雜貨といへば諸の字は餘計ではあるまいか(通行人)▲京城に氣狂病院を設けては甚麼か(精神病者)

## 藝妓衆へ

編輯小僧

今日此頃の暑さにては嘸ぞかし座敷のお務めも並大体のことには無之かと被察候尤も兒も緞もナッチもないと許りに襦袢もいもぢもナッチもなくし裸体踊りでもなされ候はゞ又隨分と涼しかるべしとは被存候も併し暑い寒いもお金次第に候故強ちお客の前にて裸体になるにも不及と存候時に本眞か嘘かは不存候も近頃三越の番頭さんより聞き及び候所に依れば此年の夏着は諸裾の中にアマリハケ不申此れも一般世の中が不印の爲めなるべしとかのことに候がもしも本眞の事ならば誠に以てお氣の毒の次第多分去年の夏物を洗ひ張してお召しなさるゝことゝは小僧の要らざるおセッカイに候か兎に角人氣商賣の諸君に取つてはあまり香ばしからぬ傾かと被存候尤も世辭で丸めて浮氣で捏ね上げて落ろしてタラして取つた折角のお金をセッ〳〵馬の脚に注ぎ込み候ては何んぼ不見轉をなされ候ても到底お金の貯る氣づかひ無之候先はお見舞迄あら〳〵

## ●天氣豫報(自十一日午後六時至十二日午後六時)

南又は西の風晴

十一日午前六時各地氣象天概況

今朝高壓部位は日本海北部に低壓部位は支那東海に偏在し韓國一般に風力大ならず天氣も晴朗なれども平壤及城津は雨を見たり

老妓 茶羅次の身上話（一）

◎夜嵐お絹（其二）

今では餘り見受けませぬ樣でムいますが其時分の芝居茶屋は何れも戸を上から下したもので横から引いて閉てるなんていふ事はありませんでしたお絹さん家は普通極つて大戸を二枚下し上一枚だけ開けて置いて其處から覗くと家内の薄暗い中に御燈明が見ゑ〳〵して居りましたのでシメ屋といふ號名の方が却つて通りの宜い位でムいますた夫れにお絹さんといふ女がスラリッとした惚れ〳〵する姿の眞正に宜い姐さんだつたのでシメ屋のお絹〳〵といつて大した評判ものでした妾は其時分まだホンの子供でムいましたからお絹さんに旦那があるといふ事は聞て居ましたが其旦那といふのは如何なものかソンナ事はちつとも御存じ無しでした只子供心にも一度は其旦那といふものを見たいと思つて居ると或日編笠を冠つて小さい刀を一本腰に差した男がお絹さん家から出て行くのを見ましたから彼の人はと聞くとあれがお絹さんの旦那だと敎ねられヤット旦那といふ人の姿を見ましたが如何な顏でしたか顏は編笠でとう〳〵判然らず仕舞でムいました

お絹さんは日頃極く柔順なしい質で誰にもやさしい女でした――が思いつめといふのは恐ろしいもんで彼の故市川樒十郎さんに深くなつたばッかりでトウ〳〵其旦那といふのを殺しつちまいまして自分も刑罰になつたのでムいますが其殺した當時の事は子供心にも薄々記憶て居ります

と彼女は側なる三味線を押し除けチョと後を振り返つたが刻み氣味に膝を進めて前なる火鉢を引寄其縁を輕く兩手で撫で廻した

其頃妾は御絹さんから春雨を稽古して貰つて居りましたので毎日の樣に往來して居たのでムいます表から往く事もありますが妾ん家とは裏合せになつて居りますんで大概は勝手口から這入〳〵しましてす或朝の事でいつもの通り何の氣も付かず春雨を浚つて貰はうと例の通り裏口へ掛るとお絹さん家の下女でお松さんといふ女が流し元で何か汚物を頻りと洗つて居るのが目についたのでお松さん何を洗つてるのつて聞きますと子何に昨夜旦那が吞み過した爲か吐瀉をひろげつちまつたので夫れで今洗つて居る所なのさ夫れに今日は姐さん家に少し取込みがあるからお稽古はお休みなさいナつていふのでせう其洗つて居る汚物が普通の汚れ物で無い所へもつて來て取込みがあるといふのですから年でも取つて居たら直ぐに此りやア變だわ位いに感付も致しましたらうが何しろ小供でソンナ事にも氣は付かずハアそうといつて柔順に我家へ引ッ返しました



●新聞料 ▲一枚金二錢▲一ケ月前金卅五錢▲三ケ月前金壹圓▲六ケ月金貳圓▲郵税一ケ月金拾壹錢
●廣告料 ▲五號活字十九字詰一行一回四十錢▲特別廣告五號活字十九字詰一行金五十錢
發行兼編輯人 秋山忠三郎
印刷人 高木久馬太
發行所 京城西小門通 京城新聞社 電話六六三番